

奈良市市民参画及び協働によるまちづくり実施計画の見直しについて（案）

1. 現行の運用

- 平成23年度から、市民参画及び協働により推進していく事業について各課が実施計画を作成
- 年度末に事業の振り返り（評価）を行い、市民参画・協働の推進につなげてきた

（参考）条例第18条第3項

市長は、毎年度、推進計画に基づき講じる施策の**実施計画及び実施状況を公表**しなければならない。

2. 効果と課題

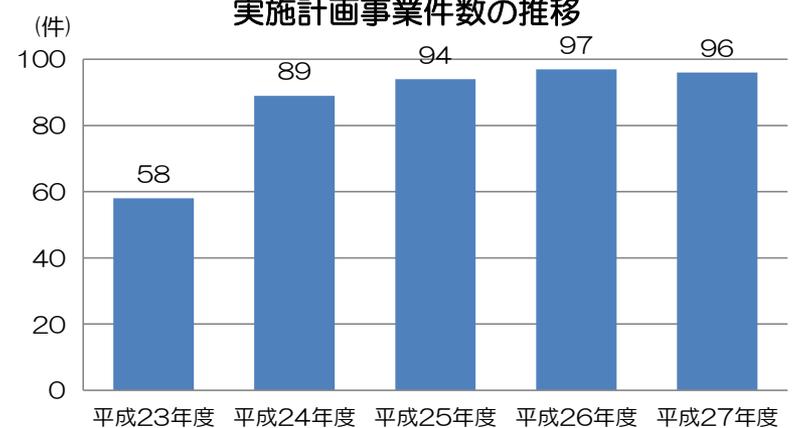
（1）効果

- **事業件数が着実に増加**し（図表1）、庁内における協働の意識向上がみられる

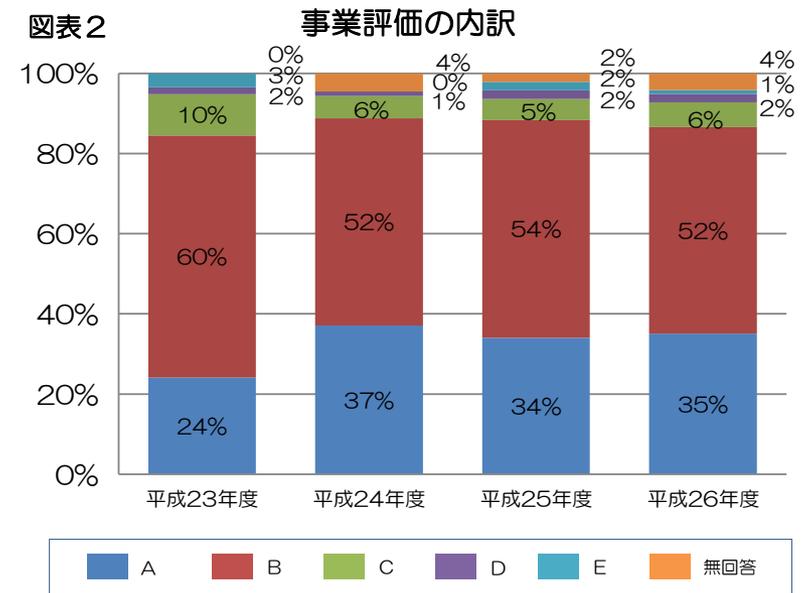
（2）課題

- 事業評価の内訳に大きな変化は見られない（図表2）
- 事業を挙げているのは全133課中49課（36.8%）であり、**協働の意識が全庁的に行きわたっているわけではない**
→いかに協働の輪を広げられるか
- 実施計画の**様式が複雑化**し、各課の事務負担が増加するとともに、市民にもわかりにくくなっているのではないか

図表1



図表2



3. 改善案

- (例) 協働となる参考事業を取り上げ、庁内に広報
→ 庁内に紹介することで、協働に対する意識向上につながる
- 様式をわかりやすい形に見直す
(実施計画・事業評価の両シートを1枚に)
→ 各課の事務負担を減らし、市民にもわかりやすい形に

現行のシート

A

<実施計画シート>

No.	57	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」
部署	市民活動部	課名	協働推進課(関係課:管財課、公園緑地課、土木管理課、道路維持課、河川課他)
総合計画上の位置付け	章 第4章 生活環境 基本施策 4-03 生活・環境衛生 施策 4-03-01 環境美化の推進	基本施策	4-03 生活・環境衛生
関連計画等	計画額 決算額	H28 H29	H30 H31 H32
協働の相手	自治会・ボランティア団体・事業者等	協働の形態	事業協力
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度
区分	継続	特記事項	特になし
事業の目的・概要	誰もが訪れたい、未来永く暮らしたい魅力あふれる奈良市を実現するための「もてなしのまちづくり」を市、市民、事業者が協働して推進する。「もてなしのまちづくり」を総合的に推進するための奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画を実施することにより、市民、事業者の取組への参加を促進する。		
達成目標	目標	活動団体数の増	年度 H28 H29 H30 H31 H32 目標値 実績値
全体計画	目標	活動団体数の増	年度 H28 H29 H30 H31 H32 目標値 実績値
達成の手段	事業を周知するためのホームページの充実、アポイント制の取組等により、協働の増加を図る。		

B

PDCAサイクルに基づき当該年度の実施計画を年度当初に記入

市(行政)	P<計画>	D<実行>	C<評価>	A<改善>
自治会・ボランティア団体・事業者等	中間の活動計画	美化活動	活動報告書の提出	団体内で協議

平成26年度からの改善点

市(行政)の美化を市民の方々に担っていただくことで、「自分たちのまちは自分たちできれいにしよう」という意識が芽生え、地域コミュニティの再生につながった。市の支援は最小限に留めるとして、ボランティア意識の醸成や、将来的には市の経費削減にもつながることが期待できた。

C

事業評価部分

年度当初たてた実施計画に基づき、各課が自己評価

協働の原則に基づいた評価項目	評価
互いの立場や関係を保つことができたか。	B
互いの立場や特性を相互に理解し尊重しうて、それぞれの役割を明確にすることができたか。	A
協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	A
依存や意図の関係に陥ることのないよう、協働相手の自立化を進められたか。	C
協働相手と目的を共有することができたか。	A
互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	A
協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	B
協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	C
埋れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	C

協働によって得られた効果

市(行政)

自治会・ボランティア団体・事業者等

協働の原則に基づいた評価項目

協働によって得られた効果

協働を推進するための課題と対策

協働相手からの意見など

新シート(サンプル)



※ 文言や数値等は参考で記入したものであり、事実とは異なる。

No.	60	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」
部署	市民活動部	課名	協働推進課(関係課:管財課、公園緑地課、土木管理課、道路維持課、河川課他)
総合計画上の位置付け	章 第4章 生活環境 施策 4-03-01 環境美化の推進	基本施策	4-03 生活・環境衛生
関連計画等	計画額 決算額	H28 H29	H30 H31 H32
協働の相手	自治会・ボランティア団体・事業者等	協働の形態	事業協力
実施の時期	通年	事業開始年度	平成20年度
区分	継続	特記事項	特になし
事業の目的・概要	誰もが訪れたい、未来永く暮らしたい魅力あふれる奈良市を実現するための「もてなしのまちづくり」を市、市民、事業者が協働して推進する。「もてなしのまちづくり」を総合的に推進するための奈良市もてなしのまちづくり推進行動計画を実施することにより、市民、事業者の取組への参加を促進する。		
達成目標	目標	活動団体数の増	年度 H28 H29 H30 H31 H32 目標値 実績値
全体計画	目標	活動団体数の増	年度 H28 H29 H30 H31 H32 目標値 実績値
達成の手段	事業を周知するためのホームページの充実、アポイント制の取組等により、協働の増加を図る。		

平成28年度実施計画

市(行政)	P<計画>	D<実行>	C<評価>	A<改善>
自治会・ボランティア団体・事業者等	中間の活動計画	美化活動	活動報告書の提出	団体内で協議

平成28年度事業評価

協働の原則に基づいた評価項目	評価
互いの立場や関係を保つことができたか。	C
互いの立場や特性を相互に理解し尊重しうて、それぞれの役割を明確にすることができたか。	A
協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	A
依存や意図の関係に陥ることのないよう、協働相手の自立化を進められたか。	C
協働相手と目的を共有することができたか。	A
互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	A
協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	B
協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	C
埋れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	C

総合評価 B

協働によって得られた効果

市(行政)

自治会・ボランティア団体・事業者等

協働の原則に基づいた評価項目

協働によって得られた効果

協働を推進するための課題と対策

協働相手からの意見など